

● 常緑広葉樹

アカガシ (学名 : *Quercus acuta* Thunb.)



特徴：樹高 20m になる高木性の常緑樹で、宮城・新潟以南の本州から九州にかけて分布する。萌芽力は強く、萌芽によって二次林を形成する。樹皮は灰褐色でまだらにはげ落ちる。葉は鋸歯がなく、葉柄が長い。堅果は翌年の秋に熟す。材は赤みを帯びて堅く、木刀やノミの柄、カンナの台、船の舵などの強度を要する用途に利用される。

(写真撮影)

勝木俊雄

イチイガシ (学名 : *Quercus gilva* Blume)



特徴：最大 30m 程度にまで達する高木性の常緑広葉樹であり、材は硬く、幹の通直性が高い。分布は、本州（関西以西の太平洋側）、四国、九州の暖温帯域である。大径木の幹には、波紋上の模様が現れる。葉の裏には一面に黄褐色の星状毛が密生する。萌芽能力は低い。堅果はアカガシなどとは異なり、アク抜きせずに生食が可能である。

(写真撮影)

上段：勝木俊雄

下段：横井秀一



ウラジロガシ (学名 : *Quercus salicina* Blume)



特徴：樹高 20m になる高木性の常緑樹で、宮城・新潟以南の本州から沖縄にかけて分布する。山地の谷間を好む。萌芽力は高く、萌芽によって二次林を形成する。樹皮は灰黒色で白色の皮目がある。葉裏には蠟質を分泌して白色となる。堅果は翌年の秋に熟す。材は堅く、建材や家具材として利用される。また、枝葉からの抽出物には結石抑制作用が認められている。

(写真撮影)

上段：勝木俊雄

下段：佐藤 保



マテバシイ (学名 : *Lithocarpus edulis* (Makino) Nakai)



特徴：樹高 15m になる高木性の常緑樹で、自然分布は九州および沖縄だが、本州でも多く植栽されて野生化しており、侵略的国内外来種であるとの指摘もある。萌芽力は強くしばしば株立ちする。樹皮は灰黒色。葉は楕円形で大きく、裏面は黄褐色を帯びる。堅果は翌年の秋に熟し、大型でタンニンが少なく、あく抜きなしで食用可能。材は堅いが腐朽しやすく、建築材や家具材、薪炭材などに利用される。

(写真撮影)

五十嵐哲也

スタジイ (学名 : *Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatus. ex T.Yamaz. et Mashiba)



特徴：樹高 25m になる高木性の常緑樹で、福島・新潟以南の本州から沖縄にかけて分布する。萌芽力は高く、萌芽によって二次林を形成する。樹皮は灰黒色で縦に割れる。葉は裏面に毛を密生して灰褐色。堅果は当年の秋に熟し、あく抜きなしで食用可能。材は木炭やほだ木として利用され、樹皮はタンニンの材料となる。

(写真撮影)
勝木俊雄

イスノキ (学名 : *Distylium racemosum* Siebold et Zucc.)



特徴：樹高 20m になる高木性の常緑樹で、関東以西の本州から沖縄まで分布する。萌芽力は低く、萌芽更新は困難。樹皮は灰白色だが大木では赤みを帯びる。葉にはひよんの実と呼ばれるイチジク状の虫こぶができる。種子は乾燥した果皮の圧力で弾かれて散布される。材は極めて堅く、器具、木刀、そろばん玉などに利用される。また、虫こぶもタンニンの材料となる。

(写真撮影)
上段：五十嵐哲也
下段：佐藤 保



タブキ (学名 : *Machilus thunbergii* Siebold et Zucc.)



特徴： 樹高 15m になる高木性の常緑樹で、本州から九州の海沿いに分布する。萌芽力は強く、萌芽更新が可能。樹皮は暗褐色で縦縞があり、平滑。葉は裏面が灰緑色で、頂芽は赤みを帯びて大型。実は小さいが構造がアボカドに似ており、かつては同属とされていた。材は建築や家具に使われる。また樹皮は粘りがあり、線香のつなぎなどに用いられる。

(写真撮影)

上段：勝木俊雄

下段：横井秀一

クスノキ (学名 : *Cinnamomum camphora* (L.) J.Presl)



特徴：樹高 20m になる高木性の常緑樹で、関東以西の本州から九州にかけて分布するが、人里に多く森林には少ないことから中国南部やベトナムからの史前帰化植物との説もある。成長が速く病虫害に強い上に長命なため、各地に巨木が存在する。萌芽力も強い。樹皮は暗褐色で短冊状の割れ目がある。葉は三行脈があり、脈腋にダニ室がある。漿果は黒色に熟し、鳥散布される。材は腐りにくく、古くは丸木船や仏像に利用された。また、化学合成されるまでは樟脳を取るために栽培された。

(写真撮影)

上段：勝木俊雄

下段：佐藤 保

ユズリハ (学名 : *Daphniphyllum macropodum* Miq.)



特徴：樹高 10m になる高木性の常緑樹で、福島以南の本州から沖縄にかけて分布する。萌芽力は乏しく刈り取りに弱い。葉は枝の先端に輪生状に集まり互生。核果は黒く熟し、鳥散布される。新葉が展開してから旧葉が落ちる様子を親が子の成長を見届ける様子になぞらえ、縁起物として正月飾りなどに利用される。

(写真撮影)

上段：五十嵐哲也

下段：佐藤 保



ヤブニッケイ (学名 : *Cinnamomum tenuifolium* (Makino) Sugim. ex H.Hara)



特徴：樹高 15m になる高木性の常緑樹で、宮城・富山以南の本州から沖縄・小笠原に分布する。萌芽力は強く株立ちする。樹皮は灰黒色で平滑、不規則にはげ落ちる。芳香のある葉は互生又は対生、クスノキに似るが脈腋にダニ室がない。漿果は黒熟し、鳥散布される。材は器具や薪炭に利用される。葉から香油を取り、種子油はカカオ脂の代用とされたことがある。

(写真撮影)

佐藤 保

ヤブツバキ (学名 : *Camellia japonica* L.)



特徴：樹高 18m になる高木性の常緑樹で、本州から九州にかけて分布する。海岸から山中まで良く生育し、耐陰性、萌芽力も高いが成長は遅い。樹皮は灰白色で平滑。葉は厚く光沢がある。種子は油を含んで堅く、落下後にネズミによって二次散布される。花を觀賞するために広く栽培され、園芸品種も多い。材は堅く緻密で器具材や印材に用いられる。種子油は食用、灯用、整髪用などに広く用いられた。

(写真撮影)

上段：勝木俊雄

下段：佐藤 保